

マタイ 11:25-30 「疲れた者、重荷を負う者はわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」

1. 質問

- A) とても人気のある箇所。しかし「疲れたときだけ休みをもらいに行く」のような(困った時の神頼み的な)人間に都合よい解釈が可能か？
- B) 「休ませてあげよう、私は柔和で謙遜な者。私の軛は負いやすく荷は軽い」は理論的に成り立たない印象がある。解釈の難しさがある。
- C) 核心的質問：「イエスが与える本当の安らぎとは何なのか？」

2. 連続性 (流れの中で読む) の重要性

- A. 11章1~24節：「回心しない者への厳しい言葉と裁き」
- B. 11章25~30節 **3部構成で捉える**

- B-1 25,26節：父への賛美『賢い者、知恵あるものには隠して幼子のようなものにお示しになりました』
- B-2 27節：父なる神と一体性、一致「父の他に子を知る者はなく、子の他には、父を知る者はいません」(ヨハネの特徴)
- B-3 28-30節：「疲れた者は…わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。柔和で謙遜なわたしの軛を負い、わたしに学べ。わたしの軛は負いやすく、荷は軽い。」

- C. 12章1~8節：ファリサイ派の人々への非難
「人の子(イエス)は安息日の主なのである」という主題

3. ~11章24節⇒ 25,26節 ⇒ 12章頭の流れの中で

- 「賢い者、知恵ある者」 VS 「幼子のような者」の構図が成り立つ。

学識のある者、専門家という意味だが、 知恵を自慢し、回心しない ファリサイ派、律法学者の人々	無学な者、知識のない者という意味。 幼子のように、何も持たないがゆえに 神に委ね、福音を受け入れ回心した人
--	---

4. 軛の意味

- 本来重い。二頭の牛などの肩に背負わせ、一方向にしか進めないようにする。上手な人が操れば、軛を背負った動物はまっすぐに歩く。
- 「私の軛を負え」とは“イエスの価値観のみ”に絶対的に服従していく

ことではないか。その時初めて本当の安らぎを得られるのではないか？

- 本当の軛(十字架)を背負うのはイエスであり、イエスが私たちの十字架を共に背負う、もしくは私たちがイエスの十字架を共に背負う。

5. 聖書における“賛美の概念 (賛美からこの箇所が始まる)”

- (特に旧約聖書とユダヤ教において)神の似姿としてつくられた人間にとって、創造主を賛美するのは当たり前で自然、かつ本質的なこと。
- 現代人の祈りは願いから始まり、事が実現したら感謝や賛美がそれに続くという傾向がある。聖書の賛美の観点とは大きなギャップ。
- 幼子のようなものとは自然に、当然のこととして神を賛美できる人？

6. 27節の重要性「父の他に子を、子の他には父を知る者はない…」

父なる神と一体性を説くこの説は前後とのつながりにおける理解が難しい。しかし、神の福音を受け入れ、回心した者(幼子のような者)を救うのはイエスであることが提示されており、それは続く12章頭の「イエスは安息日の主」に共通するテーマ：「救うのはイエス！」である。

7. ANA-PAUO (休ませる) という動詞の意味

PAUOは、英語のPause(休止、ストップする)の語源。ANAは“上に”という方向性を示す前置詞。真の安らぎとはただ単に「止まる、休止する」ことではなく、“上へ”つまり、神がおられる天に向かうのもの(方向性)。イエスが与える本当の安らぎとは→人間的な休み、単に仕事をしないこと、レジャー・娯楽等ではなく、最終的に天の国での永遠の安らぎにつながるもの…。

8. イエスが取り去ってくれる重荷 (解釈の一可能性)

救い主であるイエスが取り去ってくださるのは、原罪を含む全ての罪、不完全さ、弱さ、痛み？フィリピ2章6節~(「神の子のへりくだり」に合わせ)人の子として降って来たイエスは、すべての人を天に連れて行く。救いとは罪からの解放である。

9. 段階的解釈の可能性

「疲れた者は私のもとに来なさい、休ませてあげよう」。このイエスの言葉を聞いて慰めを感じる人は多い。それは人を引きつけ真理に導く救いの言葉の力であろう。ただし、この箇所のイエスの招きはすべて命令形で語られていること、そして、軛を背負いイエスに学ぶとは、結局のところ十字架を背負うイエスについていくことであり、それはイエスへの徹底的な追従を意味する。一番大切なことは、すべてを捨ててイエスについていくことが自分の真の幸せと全に繋がるということを真に理解、体験できるかであろう。